

1 学校教育目標

考えの深い 心の豊かな 実行力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」：児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ○「通わせたい学校」：開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ○「勤めたい学校」：教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	○最後まで挑戦する児童 ○健康で自他を大切に行動できる児童 ○学びを生活に生かす児童 ・自ら考え、行動して、自己をよりよく高めていく子 ・相手を思いやり、互いに磨き合って、豊かに関わり合える子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようとする教師 ○教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ○優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童に「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

《現状》

- ・学校…学力定着・学力向上を最重点にキャリア教育の視点も教育活動全体の基本に置きながら、地域の特色を生かす教育を進めている。
- ・児童…明るく素直な児童が多く、地域・PTAの行事にも積極的に参加している。
- ・教師…教育活動に熱心に取り組む。校内OJTの充実・研究研修により指導力の向上を図っている。
- ・地域・保護者…遺跡や寺町など、地域の文化的環境に恵まれている。強い協力関係である。

《前年度の成果と課題》

- 6年間保存用「家庭学習の手引き」を活用し、全学年が自主学習ノートで主体的な学習の取組が定着した。今後も学力向上へとつなげていく。
- いじめの根絶や不登校の解消は、取組の効果を実感できている。今後も取組を継続していき、個に応じた対応をしていく。
- キャリア教育は、本校の特色ある教育活動として定着している。地域との連携の意味でも、さらなる人材活用を図っていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成及び体力の向上	○	○	○	○	○
3	地域社会に開かれた教育	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
自主・連携 最後まで挑戦し続ける児童の育成		令和5年度目標通過率 88% 到達度確認テスト2月 75%		◇86.2%達成（4月通過率） （国語 86.2%、算数 86.2%） ◇到達度確認2月 81%		◇通過率は区平均を上回ったが、本校の目標値を若干下回った。学力の向上・定着を図る。 ◇学習の定着状況と具体的な取組は6（1）を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	学力の定着 「自主学習 ノート」 「ICT 活用 による補習・ 補充学習」	全学年 全教科	通年 (4月～)	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 主体的な学習習慣の形成 【方法】◇「家庭学習の手引き」(6年間保存版)、自主学習ノート(学年共通)の活用 ◇AIドリルの活用	◇学習時間状況調査 ◇自主学習ノートの点検(毎週) ◇朝学習での活用状況調査	◇隔月各学年の学習目標時間達成率 85%以上 ◇自主学習ノートの提出率 80% ◇AI ドリル活用率 100%	◇「ひがし学習週間」で、全学年 85%以上。 ◇自主学習ノート提出は平均で 90%。 ◇AI ドリルは全学年で 100%達成。	◇家庭学習は十分習慣化されている。自主学習ノートの提出率も上がっている。 ◇活用強化月間では平均 616 問と好調。	◎
2 継続	課題解決学習「言語活動の充実」 「ICT による 情報活用」	全学年 全教科	研究授業 (6回) OJT 研修(随時)	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】課題設定力・思考力・判断力・表現力の育成。 【方法】◇聞く・話す・書く・伝える活動の実施 ◇検索やプレゼン機能の活用	◇管理職等による授業観察と指導・助言 ◇校内協議会 ◇教員による ICT 評価	◇2月に実施する到達度確認テストで、目標値を通過する児童 75%以上 ◇ICT 活用評価 80%以上	◇2月の到達度確認テストで、目標値を通過した児童 81% ◇ICT の検索活用は全学年で達成、プレゼン機能活用は3年生以上で達成。	◇基礎学力の定着は概ねできている。さらなる充実を図る。 ◇各教科で ICT を積極的に活用しており、児童の活用能力は昨年度よりワンランクアップしている。	◎
3 継続	図書と ICT の活用 「読書の充実」 「情報の収集・選択・活用」	全学年 生活科・総合的な学習全教科	通年 (4月～)	【指導者体制】 教員＋図書・ICT 支援員 【取り組みのねらい・目的】 読書習慣と調べ学習の推進 【方法】◇図書・インターネット資料を用いた情報の収集・選択・整理・活用の仕方を学ぶ。	◇全学年「おすすめの本紹介」の取組 ◇調べる学習コンクール等への参加状況	◇「おすすめの本紹介」1人1冊以上 ◇調べる学習コンクール等への参加昨年度以上	◇「おすすめの本紹介」は6月に実施。 ◇調べる学習コンクールへの参加は、昨年度は上回ったが、区平均を下回った。	◇図書支援員による関連図書の提供や読み聞かせが効果的であった。 ◇調べる学習コンクールは、授業内で取り組みを進める。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成及び体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自主・連携 健康で自他を大切に行動できる児童の育成		学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価 80%以上	保護者による肯定的評価は 96%	◇様々な学校公開を制限なく行え、落ち着いた学校生活を見せることができた。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行・ 人権意識の向上	◇学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上 ◇校内人権研修、道徳授業公開講座の実施	◇「挨拶運動」を全学級で実施する(年1回以上)。 ◇ユニバーサルデザインによる全教室の整備(掲示物等)。	◇「挨拶運動」は前後期の2回ずつ、全学級で実施。保護者による肯定的評価は 83% ◇ユニバーサルデザインによる全教室の整備は、4月に提案し、5月から完全実施することができた。	◇挨拶運動は元気よく実施。保護者によるA評価を増やしていく。 ◇授業におけるユニバーサルデザインも作成したのが良かった。	○
いじめの根絶・不登校の解消	◇ハイパーQUを活用した校内研修の実施と学級経営・教育相談の充実 ◇いじめアンケートや相談BOXの活用で未然防止と早期発見・解消	◇校内委員会を中心に全教職員で情報を共有し、SCや関連機関との連携による児童のよさや可能性を伸ばす指導。 ◇年間3回アンケートを実施。 ◇代表委員会による「いじめ根絶標語」作り(6月実施)。	◇ハイパーQUを活用した校内研修を5月、11月に実施。 ◇いじめアンケートを3回実施し、聞き取りの時間を十分に確保した。 ◇「いじめ根絶の標語作り」は6月に実施。	◇ハイパーQUやアンケートを効果的に活用し、いじめの早期発見解決に取り組んだ。登校しぶりが増えてきているので、家庭やSCとの連携を強化していく。	◎
異学年活動の充実	◇特活行事の振り返り、クラブ・委員会活動の振り返りの肯定的自己評価で80%以上	◇異学年活動の充実(縦割り班、クラブ・委員会活動) ◇特別活動の充実(ユニセフ募金、エコキャップの回収、ゴミゼロ清掃活動等の活動を全校で実施)。	◇クラブ・委員会活動は計画通りに実施。縦割り班活動は感染症の状況により延期して実施。 ◇児童の「特別活動の振り返り」の肯定的自己評価は 85%。 ◇ゴミゼロ清掃活動は未実施。	◇縦割り班活動は、控えめに計画していたが、次年度は活動機会を増やし、さらに交流を深めていく。ゴミゼロ運動も、コロナを恐れずに実施していく。	◎
健康・体力の向上	◇安全指導教室の実施(年間3回) ◇体力テスト(持久力・敏捷性の向上)、食育の講話(年間2回)実施	◇交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室実施 ◇運動習慣の形成(なわ跳びカード、持久走カード)。各種給食ウィークの取組実施。	◇安全指導教室関係、運動週間の形成関係、食育関係の行事をすべて計画通り実施。 ◇体力テストでは、持久力・俊敏性が約半数の学年で向上。	◇体力テスト全体では、昨年度を大幅に下回った。次年度は筋力や柔軟性、跳躍力を高めていく。	△

重点的な取組事項－３		地域社会に開かれた教育 ～学校教育活動の「見える化」～			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自主・連携 学びを生活に生かす児童の育成		学校評価アンケート「見える化」 肯定的評価 80%以上	保護者による肯定的評価は 97%	◇制限のない公開場面が増え、「見える化」が進んだ。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・開かれた学校づくり協議会による年間2回以上の学校評価アンケート	◇2回の学校評価アンケートの平均回収率 70%以上 ◇各項目肯定的評価 70%以上	◇学校評価アンケートを実施(年2回、6月・10月予定)。 ◇学校公開期間中に、授業診断を行い、結果を授業改善に生かす。	◇学校評価アンケートは予定どおり実施。平均回収率は6月 28%、10月 33%であった。各項目の肯定的評価は全て 80%以上であり、平均で 91%であった。	◇平均回収率が下がったのは、回答方法を 구글フォームにしたためと考えられる。次年度は、保護者への周知を早い時期に行っていく。	△
幼保小中連携教育	◇小1プロブレム問題発生ゼロ ◇中1ギャップ問題発生ゼロ	◇あだち幼保小接続期カリキュラムについて実践・実施状況調査。 ◇幼保連携園5歳児と児童との直接交流。教員の交流研修。 ◇小中連携校との教科研究、授業公開協議会の実施。 ◇小中連携校との合い言葉「かみきそあじ」の徹底。	◇幼保小連携は、5歳児と1年生が2月に直接交流。教員の交流は、2月に1年担任が幼保で研修を実施。 ◇小中連携は、計画通り7回(授業公開4回、事前協議2回、講演会1回)実施。 ◇「かみきそあじ」は、年間通して指導を行い、87%定着した。	◇幼保小連携は、計画遅れがあったので、次年度は年度当初からスタートをしていく。 ◇本校での小中連携は、講師を招聘したため、具体的な指導を得られ、授業力向上につながった。	◎
キャリアタイム 「将来の夢や希望をもたせることによる、自己肯定感や学習意欲の向上」	◇全学年対象。学習への内発的動機の喚起 ◇自己肯定感や学習意欲の向上	◇地域人材の活用、外部講師の活用による講話。年8回以上 ◇実施後のレポート(毎回) ◇学力調査の意識調査。学習意欲や将来の希望について調査と学力状況との相関について調査・分析。	◇キャリアタイムは動画で8回実施。その内、地域人材の活用は2回(P T A関係)。実施後のレポートは毎回実施。 ◇学力調査の意識調査「将来の夢や目標がある」は88%で、区平均と同等であった。	◇キャリアタイムは将来の夢や希望をもたせるのに効果的である。今年度は、対面での講演会を復活させ、生の声を聞かせることができた。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

- 【課題】・6年生の国語においては、通過率が区平均を下回っており、学習の定着状況に課題がある。話すこと・聞くことの習熟度合が低い。
- ・5年生の算数においては、通過率が72.7%であり、学習の定着状況に課題がある。思考・判断・表現の習熟度合が低い。
- 【対策】・国語においては、ペアやグループでの話し合い活動をより多く取り入れたり、ジャムボードを活用したりすることで、自分の意見を発信し、友達の意見をしっかりと受けとめる力を付けていく。
- ・算数においては、校内研究において問題解決型の授業をブラッシュアップし、自力解決と集団検討を充実させる。学習問題を工夫して提示すること、見通しを十分にもたせることで、思考力と表現力を育成していく。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成及び体力の向上

- ・昨年度と比較して、いじめの認知件数は5件減少、不登校は同数であるが、いじめの根絶や不登校の解消へ向けての取組は、効果を実感できている。今後も取組を継続していき、個に応じた対応をしていく。
- ・体力テストの体力合計点では、男女ともに昨年度を大幅に下回った。筋持久力や投力は高かったが、柔軟性や跳躍力は低かったので、次年度はその向上に力を入れていく。

重点的な取組事項－3 地域に開かれた教育

- ・教育活動や学校行事の公開や連携教育は、昨年度よりも大幅に進んだ。次年度は、コロナ前と同様の状態へ近づけていきながらも改革を進めていく。
- ・キャリア教育は、本校の特色ある教育活動として定着している。地域との連携の意味でも、さらなる人材活用を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、ある程度の制限はあるものの通常のエデュケーション活動や行事を実施することができるようになり、子供たち一人ひとりの笑顔が一段と輝きました。本校では教育活動を積極的にコロナ前に戻す中でも、改革を加え前に進む努力をしてきました。運動会の午前開催や学習発表会の学年別参観、次年度の全学年学級編成替えなどがそれです。評価を加えながら、さらに改善して参ります。

新型コロナウイルス感染者数は少なくなりましたが、今年度はインフルエンザ感染者数が激増し、半数のクラスが学級閉鎖をする事態となりました。感染症につきましては、次年度も予断を許さない状況ですので、引き続き対策を行って参ります。子供たちが安心して学習に取り組み、新学習指導要領のねらいである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を続けて参ります。

児童の健全育成には、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら連携していくことが大切です。学校は学校教育の充実を図ること、家庭は躰を含めた生活習慣の定着を図ることが役割です。また、地域には学校と家庭のサポート、ボランティア活動などのご支援をお願いしたいと考えます。この三者がチームを組み、互いを支え合っていく精神「チーム東伊興」を共有し、「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を目指して全教育活動に取り組んで参ります。そして、家庭・地域の教育力を積極的に活用する開かれた学校づくりをさらに推進して参りますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・今年度も児童が各方面で活躍し、表彰されました。

足立区交通安全ポスターコンクール（金賞）、MOA美術館児童作品展（銀賞）、足立区明るい選挙ポスターコンクール（銅賞）、人権ポスターコンクール（銅賞）、メトロ児童絵画展（佳作）、足立区教育委員会児童・生徒褒賞（区長褒賞・教育委員会褒賞）、図書館を使った調べる学習コンクール（奨励賞）等

